

## 10. 社会学研究科

(1) 社会学研究科の教育目的と特徴	10-3
(2) 「教育の水準」の分析	10-4
分析項目Ⅰ 教育活動の状況	10-4
分析項目Ⅱ 教育成果の状況	10-11
【参考】データ分析集 指標一覧	10-13



## (1) 社会学研究科の教育目的と特徴

### 1. 研究科の教育目的

本研究科は、社会科学・人文科学の諸分野において、専門性と総合性を併せ持つ研究者と学識ある高度専門職業人を育成することを目的とする。修士課程は、社会科学の幅広い知識と深い問題意識によって支えられた研究基盤と高度な実践能力を備えた人材を育成することを目的とし、また博士後期課程は、高度な専門性と豊かな学識、卓越した研究能力と自立性を備えた研究者を育成することを目的とする。本研究科はこうした目的の実現に向けて、総合社会科学専攻と地球社会研究専攻という2つの専攻が置かれている。前者では、各専門分野における学術探究とその総合的発展を担う人材の育成を目指した教育研究が行われ、後者では、理論と実践を統合し、地球規模の諸課題に対して創造的・実践的に取り組む人材の育成を目指した教育を行う。

### 2. 教育組織の特徴

本研究科は、総合社会科学専攻と地球社会研究専攻の2専攻から構成される。教員はいずれかに所属し、相互に協力しながら研究科全体の運営を組織的に行っている。総合社会科学専攻は6つの研究分野（社会動態、社会文化、人間行動、人間・社会形成、総合政策、歴史社会）を基礎に編成され、教員はいずれかの研究分野に属する。大学院生は、総合社会科学専攻、地球社会研究専攻のいずれかに属し、総合社会科学専攻では所属先は6研究分野のいずれかになる。

修士課程の定員は、博士後期課程のおよそ2倍であり、修士課程を修了した大学院生の約半数が就職することになる。しかし、本研究科では、修士専修コースを設けず、全員が同じ立場で教育を受けることになる。これも本研究科の教育組織の特徴であるが、研究者志望と職業人志望とが対等の立場で切磋琢磨することが、どちらにとっても重要な経験だと考えるからである。

### 3. 教育方法とカリキュラムの特徴

本研究科のカリキュラムの最大の特徴は、社会科学を中心に、人文科学や自然科学関連のものを含めて、社会と人間、社会と文化についての今日的な問題への関心を共通の核として多様な授業科目が用意されている点にある。大学院での学修は、いずれかのディシプリンに足場を置きつつ、学問横断的で学際的なアプローチをとることが推奨されている。実際的な社会的課題を対象に問題解決を目指す地球社会研究専攻においては、専攻の理念として①問題に焦点をあてて考えていくこと(issue-focused)、②現実的な解決を志向すること(solution-oriented)、③西欧中心の思想から脱却すること(de-Eurocentric)が謳われている。

具体的なカリキュラムとして、総合社会科学専攻では、「社会科学研究の基礎(I~IV)」が選択必修科目として、修士1年次に配置されている。修士2年次には、各研究分野で開講されるリサーチワークショップが必修とされ、研究分野所属の全教員から修士論文研究について指導を受けられる集団指導の機会を持つ。講義科目は、講義A(学部生との共修科目)と講義B(大学院生専用の科目)が、研究分野ごとに多数配置され、自由に選択可能である。地球社会研究専攻では、基幹講義群と実践科目群に大別されて授業科目が配置されており、これらの中から自由に履修が可能である。実践科目の中には、インターンシップ、リサーチ演習(フィールドワーク、資料調査などの独立研究を実施)、プロジェクト演習(ワークショップやセミナーの企画運営を実施)が含まれる。2つの専攻にまたがる共通科目群も配置されており、その中には、「研究基礎科目」「高度職業人養成科目」「先端社会科学」が含まれている。これらは後述するように本研究科を特徴づけるカリキュラムである。

## (2) 「教育の水準」の分析

### 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

#### <必須記載項目1 学位授与方針>

##### 【基本的な記載事項】

- ・ 公表された学位授与方針（別添資料 3210-i1-1）

##### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

#### <必須記載項目2 教育課程方針>

##### 【基本的な記載事項】

- ・ 公表された教育課程方針（別添資料 3210-i2-1）

##### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

#### <必須記載項目3 教育課程の編成、授業科目の内容>

##### 【基本的な記載事項】

- ・ 体系性が確認できる資料（別添資料 3210-i3-1）
- ・ 自己点検・評価において体系性や水準に関する検証状況が確認できる資料（別添資料 3210-i3-2）
- ・ 研究指導、学位論文（特定課題研究の成果を含む。）指導体制が確認できる資料（別添資料 3210-i3-3）

##### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

#### ○ 学部・大学院修士課程5年一貫教育プログラムの開始

社会学研究科は、学部と大学院修士課程での教育をより密接に接続させることにより、研究者又は高度職業人を目指す優秀な社会学部在籍者が、より専門的な教育を受け、かつ早期のキャリアアップを可能にするための「学部・大学院修士課程5年一貫教育プログラム」を2019年度より開始した。（別添資料 3210-i3-4）[3.1]

#### ○ ジェンダー社会科学研究センターによるジェンダー教育プログラムの教育実践

社会学研究科内研究センター、ジェンダー社会科学研究センターは、2005年度より全学部、学部・研究科横断的なジェンダー教育の推進、ジェンダー研究の活性化を目指した活動に取り組んできた。2007年に開設されたジェンダー社会科学研究センターは、その後、ジェンダー教育プログラムを活動の柱に据え、毎年お

よそ 55 科目の授業を提供し、年度履修者は延べ 4200 名を越えている。[3.2]

2017 年度 基幹科目群科目数 9、連携科目群科目数 36、合計 45 科目

2018 年度 基幹科目群科目数 8、連携科目群科目数 59、合計 67 科目

2019 年度 基幹科目群科目数 5、連携科目群科目数 69、合計 74 科目

#### <必須記載項目 4 授業形態、学習指導法>

##### 【基本的な記載事項】

- ・ 1 年間の授業を行う期間が確認できる資料（別添資料 3210-i4-1）
- ・ シラバスの全件、全項目が確認できる資料、学生便覧等関係資料（別添資料 3210-i4-2）
- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数（該当期間における協定等に基づく日本人留学生はいないため、別添資料なし）
- ・ インターンシップの実施状況が確認できる資料（別添資料 3210-i4-3）
- ・ 指標番号 5、9～10（データ分析集）

##### 【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

#### ○ 社会学研究科の授業科目の特色

社会学研究科の研究科共通科目群は、研究基礎科目、高度職業人養成科目、先端社会科学という 3 つの領域から構成されており、後者の 2 つは実践的学修プログラムとなっている。また地球社会研究専攻では、実践科目群でグローバルな諸課題の解決法を学ぶとともに、連携協定機関である三菱総合研究所でのインターンシップを通じて、社会問題の捉え方、解決方策を学ぶ工夫をしている [4.2]

#### ○ 社会学研究科のリサーチワークショップと先端課題研究

大学院教育では、修士論文の研究分野別の集団指導体制であるリサーチワークショップなど集団指導を基本方針としている。教員と院生の共同研究である「先端課題研究」などにより、若手研究者が研究成果を発信する機会を作るなど、大学院生のキャリア形成に工夫をしている。[4.5]

#### <必須記載項目 5 履修指導、支援>

##### 【基本的な記載事項】

- ・ 履修指導の実施状況が確認できる資料（別添資料 3210-i5-1）
- ・ 学習相談の実施状況が確認できる資料（別添資料 3210-i5-2）
- ・ 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料（別添資料 3210-i5-3）
- ・ 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況が確認できる資料（別添資料 3210-i5-4）

## 一橋大学社会学研究科 教育活動の状況

### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

#### ○ manaba ポートフォリオシステムと CELS 学務情報システム

大学院生の主体的な学習を促すため、manaba ポートフォリオシステムを授業や学生の事前・事後学習に活用しているほか、2019年度から導入された CELS 学務情報システムが、大学院生の主体的で計画的な履修支援に活用されている。[5.1]

#### ○ 学習相談の体制

大学院生の学習相談には、大学院教育専門委員2人が随時対応するとともに、各教員がオフィスアワーを設定している。[5.2]

#### ○ 社会的・職業的自立を図るための取組

大学院生の社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組としては、高度職業人養成科目を開設し、発信英語力の強化や教育力の強化を図っている。また、「アーキビスト」や「社会調査士」の資格を取得できる科目群を開設し、社会調査に関する基礎的な知識・技能を身につけた人材、アーカイブズ学の基礎・技能を身につけた人材の育成を図っている。[5.3]

#### ○ 履修上の特別学習支援

履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援は、障害学習支援室と国際教育交流センターが連携して対応している。[5.4]

## <必須記載項目6 成績評価>

### 【基本的な記載事項】

- ・ 成績評価基準（別添資料 3210-i6-1）
- ・ 成績評価の分布表（別添資料 3210-i6-2）
- ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料（別添資料 3210-i6-3）

### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

#### ○ 「成績評価の方法と基準」

大学院の履修科目及び修士課程の学位論文の成績は2017年度より、学士課程における5段階の成績評価と同様に、A+、A、B、C、Fの5段階評価となり、教員はシラバスに各科目の「成績評価の方法と基準」を記載している。こうした成績評価の厳格化は教授会にて教員に周知され、担当教員に対しては成績評価の分布表等をフィードバックすることで成績評価の分布状況の改善を促している。[6.1]

## <必須記載項目7 卒業（修了）判定>

### 【基本的な記載事項】

- ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定（別添資料 3210-i7-1）
- ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含

めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料（別添資料 3210-i7-2）

- ・ 学位論文の審査に係る手続き及び評価の基準（別添資料 3210-i7-3）
- ・ 修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方が確認できる資料（別添資料 3210-i7-4）
- ・ 学位論文の審査体制、審査員の選考方法が確認できる資料（別添資料 3210-i7-5）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

##### ○ 学位論文における研究倫理規範

修士課程及び博士後期課程における学位論文の提出時に、2016年より「研究倫理規範に係る誓約書」の提出を義務付けた。[7.2]

### <必須記載項目8 学生の受入>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 学生受入方針が確認できる資料（別添資料 3210-i8-1～2、3210-i3-4【再掲】）
- ・ 入学定員充足率（別添資料 3210-i8-3）
- ・ 指標番号1～3、6～7（データ分析集）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

##### ○ 特別選抜の実施

多様な学生の入学促進・志願者増加策として、2019年から総合社会科学専攻修士課程学生募集において特別選抜を実施した。「学部・大学院修士課程5年一貫教育プログラム」の履修希望の学生のための本選抜試験では、出願資格に Grade Point Average (GPA) の基準を設け、民間の外国語検定試験スコア提出（任意）を求めた。[8.1]

##### ○ 大学院入試での民間外国語検定試験の活用

2019年に実施した総合社会科学専攻の修士課程学生募集（秋期一般選考）の第1次試験より語学試験を廃止し、TOEFL、TOEICなど民間の外国語検定試験スコアを提出してもらった見直しを行った。[8.1]

### <選択記載項目A 教育の国際性>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数（該当期間における協定等に基づく日本人留学生はいないため、別添資料なし）
- ・ 指標番号3、5（データ分析集）

## 一橋大学社会学研究科 教育活動の状況

### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

#### ○ 英語による専門科目の拡充

毎年、外国人客員Ⅲ種教員を招聘して授業を開講しているほか、「先端課題研究」や「地球セミナー」等招聘研究者によるセミナーやレクチャーを随時開講した。また発信英語力という授業を開講し、英語による論文作成や研究発表を指導した。これらにより、中期目標に掲げた「グローバルに活躍できる研究者や高度な専門性を備えた人材を育成」するための大学院教育を展開した。[A. 1]

### <選択記載項目B 地域連携による教育活動／産官学連携>

#### 【基本的な記載事項】

(特になし)

### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

#### ○ 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国文学研究資料館との連携協定

2018年9月28日に「国立大学法人一橋大学大学院社会学研究科と大学共同利用機関法人人間文化研究機構国文学研究資料館との連携に関する協定」を締結し、両機関は連携して、資料の保存と利用に関する研究・活動における交流・協力を推進し、地域社会及び国内外の発展に貢献することとした。(別添資料 3210-iB-1~2) [B. 1]

### <選択記載項目C 教育の質の保証・向上>

#### 【基本的な記載事項】

(特になし)

### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

#### ○ TF(ティーチングフェロー)プログラム

教育内容・方法を改善するため、年2~3回、教授会開催にあわせてFDを実施した。また、社会学研究科は「学士課程教育の実質化」(平成20年12月中央教育審議会答申)が政策提言として掲げられて以来、「TF(ティーチングフェロー)プログラム」(2006年~/<http://www.soc.hit-u.ac.jp/teachingfellow/program.html>)を設置して、大学院生の教育能力の育成のため、事前学習・授業観察・授業実習・事後講習の4段階からなるコースを運用してきた。専任教員の教育研究能力の向上のためには、研究専念期間の制度(サバティカル)を実施している。[C. 1]



<FDの実施状況>

【2016年度】 (開催日、テーマ)

2017. 1. 18	2017年度以降の初年次教育の体系と導入ゼミナールの実施体制
2017. 3. 8	2017年度以降の学部カリキュラム等の変更について

【2017年度】 (開催日、テーマ)

2017. 7. 12	今年度の導入ゼミ、および来年度の初年次教育について
2018. 2. 14	本学の障害学生支援における実施状況と課題
〃	2018年度の社会研究の世界および導入ゼミナールについて

【2018年度】 (開催日、テーマ)

2019. 1. 16	大学等における性的思考・性自認の多様な在り方の理解増進に向けて
2019. 2. 13	本学の障害学生支援における実施状況と課題説明

【2019年度】 (開催日、テーマ)

2019. 11. 13	大学における障害学生支援：ユニバーサルデザインと合理的配慮
〃	大学において予防すべき感染症
2020. 1. 15	2020年度・初年次教育について

<選択記載項目D 高度専門職業人の育成>

【基本的な記載事項】

(特になし)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

○ 「高度職業人養成科目」

「研究科共通科目」に「高度職業人養成科目」（発信英語力、教育技法の実践、アーカイブズ関連科目）と呼ばれる科目群が用意されている。この科目群は、文部科学省「魅力ある大学院教育」イニシアティブの「社会科学の先端的研究者養成プログラム」（2006年～2007年）と大学院教育改革プログラム「キャリアデザインの場としての大学院（入口・中身・出口の一貫教育プログラム）（2007～2009年度）を通じて、研究者を志望しないノンアカデミックキャリアのキャリアデザイン支援のため、研究者養成においてもアカデミックな発信英語力の強化、先端的な教育力の養成などを目的に設置された。また新設されたアーカイブズ関連科目は、国文学研究資料館と連携するかたちで、アーカイブズ・カレッジを単位認定している。[D.1]

## 一橋大学社会学研究科 教育活動の状況

### <高度職業人養成科目>

発信英語力	アーキビスト養成科目	教育技法の実践
発信英語力A (Discussion & Presentation)	アーカイブズの基礎と技法	教育技法の実践
発信英語力B (Discussion & Presentation 2)	アーカイブズ総論	
発信英語力C (Discussion & Presentation 3)	アーカイブズ資源研究	
発信英語力D (Academic Writing 1)	アーカイブズ管理研究 I (記録管理と評価選別)	
発信英語力E (Academic Writing 2)	アーカイブズ管理研究 II (記述の実践)	
発信英語力F (Academic Writing 3)	アーカイブズ管理研究 III (法制度と組織管理)	
	アーカイブズ管理研究 IV (保存管理)	
	インターンシップ (アーカイブズ実習)	

### <選択記載項目E リカレント教育の推進>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ リカレント教育の推進に寄与するプログラムが公開されている刊行物、ウェブサイト等の該当箇所（別添資料 3210-iE-1～2）
- ・ 指標番号 2、4（データ分析集）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

##### ○ 社会人向けの入試体制と必修科目の設計

社会学研究科では、社会人向けの大学院入試として総合社会科学専攻社会人特別選考（修士課程）を実施しており、社会人入学者向けには必修科目として「社会科学研究の技法」を履修してもらう工夫をしている。[E.1]

## 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

### <必須記載項目1 卒業（修了）率、資格取得等>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 標準修業年限内卒業（修了）率（別添資料 3210-ii1-1）
- ・ 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（別添資料 3210-ii1-2）
- ・ 博士の学位授与数（課程博士のみ）（入力データ集）
- ・ 指標番号 14～20（データ分析集）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

##### ○ 資格取得の成果-教員免許と専門社会調査士

第3期中期目標期間の資格取得の成果としては、教員免許取得者が合計8人、専門社会調査士は合計25人が、資格を取得した。[1.2]

##### ○ 日本学術振興会育志賞の受賞

2017年度日本学術振興会の育志賞を社会学研究科博士後期課程の院生1人が受賞した[1.2]。

### <必須記載項目2 就職、進学>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 指標番号 21～24（データ分析集）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

##### ○ 社会学研究科院生の博士進学率と学位授与者数

第3期中期目標期間の修士課程修了生（2016-2019）は合計287人、そのうち82人が博士後期課程に進学している。また、第3期中期目標期間の博士後期課程の学位授与者数は合計78人（課程博士60人、論文博士18人）で、年平均20人となっており、全国の人文・社会学系大学院においてもトップランクの博士号取得者を輩出する実績をあげている。また、博士後期課程修了生の主な就職先は大学・研究機関であり、第3期中期目標期間の大学・研究機関への就職者は合計43人となっている。（資格等取得等の状況がわかる資料（別添資料 3210-ii2-1～2））[2.1]

### <選択記載項目A 卒業（修了）時の学生からの意見聴取>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 学生からの意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料（別添資料 3210-iiA-1～2）

## 一橋大学社会学研究科 教育成果の状況

### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

#### ○ 修士一年生必修科目における授業評価アンケート結果

2016年度から2018年度に実施した修士1年次の必修選択科目「社会科学研究の基礎」と「社会科学研究の技法」の授業評価アンケート結果によると、授業の学習目標・学習範囲が「ちょうど良い」、授業が「大変有益」と回答した学生がおよそ8割となっている。[A.1]

### <選択記載項目B 卒業（修了）生からの意見聴取>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 卒業（修了）後、一定年限を経過した卒業（修了）生についての意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料（別添資料3210-iiB-1）

### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

#### ○ 地球社会研究専攻20周年記念シンポジウム

1997年に世界初のグローバル研究専攻として設立された「地球社会研究専攻」は、グローバルイシューに取り組む研究教育センターとして、多くのグローバル人材を養成し、現在、修了生は約400人に上る。20周年を迎えた同専攻は、2017年6月18日に記念シンポジウムを開催し、修了生・在学生のネットワークの強化を図ったパネル・ディスカッションを実施した。[B.1]

【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標番号	データ・指標	指標の計算式
1. 学生入学・在籍状況データ	1	女性学生の割合	女性学生数／学生数
	2	社会人学生の割合	社会人学生数／学生数
	3	留学生の割合	留学生数／学生数
	4	正規課程学生に対する科目等履修生等の比率	科目等履修生等数／学生数
	5	海外派遣率	海外派遣学生数／学生数
	6	受験者倍率	受験者数／募集人員
	7	入学定員充足率	入学者数／入学定員
	8	学部生に対する大学院生の比率	大学院生総数／学部学生総数
2. 教職員データ	9	専任教員あたりの学生数	学生数／専任教員数
	10	専任教員に占める女性専任教員の割合	女性専任教員数／専任教員数
	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
	12	本務教員総数あたり職員総数	職員総数／本務教員総数
	13	本務教員総数あたり職員総数(常勤、常勤以外別)	職員総数(常勤)／本務教員総数 職員総数(常勤以外)／本務教員総数
3. 進級・卒業データ	14	留年率	留年者数／学生数
	15	退学率	退学者・除籍者数／学生数
	16	休学率	休学者数／学生数
	17	卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率	標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	18	卒業・修了者のうち標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了率	標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	19	受験者数に対する資格取得率	合格者数／受験者数
	20	卒業・修了者数に対する資格取得率	合格者数／卒業・修了者数
	21	進学率	進学者数／卒業・修了者数
	22	卒業・修了者に占める就職者の割合	就職者数／卒業・修了者数
4. 卒業後の進路データ	23	職業別就職率	職業区分別就職者数／就職者数合計
	24	産業別就職率	産業区分別就職者数／就職者数合計

※ 一部の指標（指標番号8、12～13）については、国立大学全体の指標のため、学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。